

2026年度 総合型選抜Ⅰ期（文章読解型） 出題の意図・解答例

1 出題の意図

課題文を理解して内容に関する問いに的確に答えられるか、さらに、課題文をふまえて幅広い視点から自分の考えを論述できるかを問うた。

問一は、スマホが普及した「常時接続の世界」という状況で私たちが失ってしまったものについて、筆者の指摘していることを課題文から読み取り、要約できるかを問うた。本文に示された常時接続という状況を把握したうえで、「孤立」「孤独」「寂しさ」それぞれの意味を明確に理解できているか、読解力を試した。

問二は、「常時接続の世界」が私たちに及ぼす影響について、自分の考えを明確に述べられるかを問うた。自分の知識や具体的な経験に基づいて説得力のある表現ができているか、また、文章が筋道を立てて論理的に展開されているかを試した。

2 解答例

問一

スマートフォンなどによる情報の取得やコミュニケーションができる状況は「常時接続の世界」と呼べるが、ここでは、私たちは常に情報や他者とつながっている。そのため、何かに集中するために他人から邪魔されずに切り離されている「孤立」や、自分自身と心静かに内面的に対話する「孤独」が失われている。一方で、他の人々と一緒にいても自分は一人だと感じて他者を依存的に求めてしまう「寂しさ」が増している。スマホは「寂しさ」を紛らわせる便利な手段だが、同時に私たちにいろいろな刺激の断片を矢継ぎ早に与えるため、自己対話を止めてしまう。常時接続が可能になったスマホ時代において、私たちはそうした危うさに気づいていない。

問二

「常時接続の世界」では、絶え間なく、断片的な情報が過剰に流入することで、取捨選択が難しくなり、判断力が鈍る可能性がある。根拠の定かでないフェイクニュースに接する機会も増え、嘘の情報に振り回されて行動を起こしてしまう危険性もある。また、即時の感情的な反応が可能であり、十分な裏付けもなく書き込んだ記事が、誹謗・中傷につながってしまい、非難を浴びるようなことも起きやすい。

さらに問題なのは、浴びせられる情報の内容が特定の傾向をとめないがちなことだ。自分の関心に合う情報だけが優先的に表示される「フィルターバブル」や、自分と似た意見ばかりが繰り返される「エコーチェンバー」といった現象が、すでに指摘されている。こうした状態では、多様な視点を持つことが困難になり、思考の偏りや社会的な分断につながりかねない。

このほかに、スマホを長時間使用することによる睡眠や健康への悪影響があるし、SNSで入手した他人の情報を、常に自分の生活や価値観と比較することで不要な劣等感や承認欲求が強まることも考えられる。このように、「常時接続の世界」は利便性と引き換えに、私たちの思考や行動にさまざまな影響を及ぼしている。